

江戸川乱歩自筆稿本『家蔵同性愛関係書』目録 1

—— 日本之部 ——

丹 羽 みさと

はじめに

本目録は「江戸川乱歩」の書名入り四百字詰め原稿用紙に記された自筆稿本である。「日本之部」「和本目録」「洋書目録」「西洋に関するもの邦人の著及訳本」「支那の部 印度の部」各一冊に分かれており、乱歩架蔵の同性愛に関する新旧様々な資料が、該当ページ数を付して記されている。

成立時期については、第一冊目の「日本之部」其一に、「今月（昭和十一年十月）ノ「旅と伝説」七九―八五頁ニ」云々とあり、同じく第一冊目に「保久平賀源内（昭和二十九年）水谷弓彦」とあることから、昭和十一年頃から昭和二

十九年の間と考えられる。より範囲を狭めるならば、一冊目（「男色劇」）の項最後に貼られた『読売新聞』昭和十四年十月七日の夕刊（乱歩の鉛筆によるメモ書きは「昭十四、十、六」）や、同書の「昭和十六年七月岩田君ニ送レルカードの控（コノ外ニモ少々）」という巻末のメモ書きから、昭和十年代に集中して記されたと思われる。

乱歩の同性愛文献に関する造詣の深さについては巷間にもよく知られており、既にいくつかの先行研究がある²。丁度この頃は、前出の岩田準一と始めた同性愛研究が熟した時期でもある³。乱歩は「同性愛文学史について——岩田準一君の思出——」（『人間探求 別冊 秘版艶本の研究』第一出版社、昭和二十七年五月。のち『乱歩随筆』青

蛙房、昭和三十五年に加筆の上、所収された)の中で、早速した岩田の真摯な学究的態度を、南方熊楠や稲垣足穂らを引き合いに出しながら回顧している。本随筆には「同性愛文学基本文献」として、「古代ギリシア」から「西洋近代」「中国」「日本徳川期」「日本明治、大正期」までの「同性愛研究者が典拠として用いる虎の巻の類」も挙げられており、乱歩の関心の一端を垣間見る事ができる。

乱歩の男色研究といえは、采女と右京の悲恋を取り上げた「衆道もくづ塚」(『文芸春秋』昭和十一年九月)なる随筆が有名である。ここには、様々な近世資料が引用されており、中でも『賤のおだ巻』『藻屑物語』『本朝若風俗』『墨水消夏録』『狂歌若葉集』『三十幅』などは、本目録にも見られるタイトルである。乱歩が男色に関する資料の調査収集と研究発表を、目録の作成と同時期に進めていたことが確認できよう。

本目録には当然『藻屑物語』についても触れられているが、そこには「義理物と浪漫物との融合せる作品」という一文が付されている(「男色小説」の項)。これは、乱歩が膨大な資料を細かく読み進めながら感得した、次のような男色文献の分類に依拠している。

純粹に男色のみを取扱った文学を次の三つの段階に分

けることが出来る。

- 一、浪漫精神、宗教的Ⅱ右の仮名草紙
- 二、武士の意気地、義理Ⅱ西鶴武道物系統
- 三、肉慾、しかし極度に洗練された肉慾Ⅱ西鶴町人物系統

ちなみにこの文章は、『犬たんか』『秋の夜の長物語』『鳥部山物語』『松帆浦物語』『嵯峨物語』『幻夢物語』の資料とともに記されており、「右の仮名草紙」とはこれら五作品を指している。

この分類から、乱歩が男色文学を精神と肉体とに大別し、精神を更に宗教的なものと武道的なものに分け、それぞれ異なる階層にあると認識していたことがわかる。『藻屑物語』に乱歩が注目したのは、宗教的な武士道という男色精神の融合に興味を引かれた為であろう。男色文学、同性愛関係書に対するこのような乱歩の解釈は、近年盛んになりつつある男色文学研究⁴⁾に、新しい見地をもたらすものと思われる。

乱歩の男色研究は古典研究でもある。後年、彼は西鶴本をはじめとする古典籍の収集家となったが⁵⁾、本目録を基とした男色研究の分析は、収集の根源を探ることもなるう。

なお本稿は『江戸川乱歩と大衆の20世紀に関する総合的研究』（科学研究費補助金（基盤研究（B）（2））16320029）の研究成果報告書（平成十九年五月）の掲載原稿を加筆修正したものであるが、紙数の都合上、二回に分けて紹介する。本稿では其一「日本之部」のみを扱う。なお、文頭の「立教大学平井家寄託資料 K111-1」は、資料の請求記号である。本目録には不適當と思われる表現が見られるが、執筆当時の時代背景等を鑑み、ほぼそのままの表記とした。

〔凡例〕

- ・旧字体は新字体に統一し、「ツ」「ヤ」「ユ」などの表記揺れは大文字に統一した。
- ・新聞切り抜きなどの添付資料、ミセケチ、注記のない頭注の印（○や✓）は省略した。
- ・書名下の漢数字は巻数等を示し、書名上下のアラビア数字は同性愛に関する該当ページを示している。
- ・論者注記は「*」を付した。

立教大学平井家寄託資料 K111-1

家蔵同性愛関係書（其一） 日本之部

●印はその書全体を同性愛のみにさゝげしもの。

〔辞書 書目〕

広文庫（二十卷）

物集高見編

男色、稚児、小姓、地獄、かげま其他の項。

群書索引（三卷）

同

右同。

日本随筆索引

太田為三郎編

続日本随筆索引

広文庫同様諸項に参考となるもの多し。

寛文書籍目録

〔書目集覧〕本

禿氏祐祥編

元禄書籍目録

享保書籍目録

〔書目集覧〕二

同編

宝暦書籍目録

明和書籍目録

右五種は原本写真凸版なり。今は見ることの出来ない初期役者評判記の書名多き事などこの書目の取柄也。

共二三百部限定版。東林書房。

浮世草子目録（大久保葩雪）

好色本目録（柳亭種彦）

江戸狂歌書目（蟹の家老人）

近古小説解題

平出鏗二郎
主として仮名草子の同性愛に関するものの梗概を見るに便也。

軟派珍書往来

石川巖
男色篇は日本男色文学史なり。この種の書中出色のもの。

列伝体小説史（前篇）

水谷不倒
主として浮世草子の同性愛に関するものの梗概を見るに便也。

好色書籍目録

西山堂主人筆録
前出種彦の好色本目録を抄記し、補遺を加へたるもの。

増訂筆禍史

麿姓外骨
男色本散見し、解説も亦参考となる事多し。

江戸戯曲小説通志

双木園主人
伝記の部は江戸作者人名録にて、男色書著者の略伝を知るに便也。

新修 日本小説年表

朝倉無声

日本小説年表（近世。日本文学大系二十五卷）

江戸時代小説題本翻刻物索引

日本叢書目録

国書解題（右叢書目録をも合綴せり）

武江年表補正略（続燕石十種第一冊にあり）喜多村信節
和漢事始
和漢三才図絵（「日本随筆大成」本）
寺島良安

卷十人倫之用の内、男色、殉死、男妾女、女妾女等の項。

会本雑考

三人連狎（お伝三津瀬川）のことなど。
ゑん本手引草
いろは別なり。

藏春洞書目解題（謄写本）

喜多村信節
嬉遊笑覧（「日本随筆大成」本）
春洞主人録

卷五の下若衆かぶき以下数項。

文献引用夥く、
書目の観あり。
関根只誠

浮世画百家伝

浮世絵の顔
増補浮世絵類考（「温知叢書」卷四）
作者別解説也。
式亭三馬 蜀山人の書入等
笹屋邦教 山東京伝

近世物之本江戸作者部類（「温知叢書」卷五）

天保五年。人名別解説也。

日本好色美術史

解行山人
原浩三

（一般論 一般史的研究）

●神秘なる同性愛 東京共益社版

沢田順次郎

上下合本。医学的研究及内外同性愛史。

●変態性慾論 春陽堂版

羽田鏡治
沢田順次郎

同性愛に最も力を注ぐ。前書と並せ見るべし。

閻性術 博文館

高田義一郎

統性術（前書の改題、削除本）

同性愛の項。和漢洋同性愛史、文献の引用多し。

●男色考 文芸資料研究会

花房四郎

内外男色史。

軟派珍書往来

石川巖

男色篇は日本同性愛文学史なり。

医学以外の医学

田中香涯

「男色に関する史的及文学的考証」「余説、男娼と芝

居茶屋」の二項。

●本朝男色考（「犯罪科学」切抜）

岩田準一

日本男色史として最も詳しくものなり。

●稚児伝説（雑誌切抜）

稚児と同性愛に関する網羅的研究。

日本奴隷史

阿部弘蔵

各時代の男色史参考となる事多し。

日本売笑史

〃

売笑三千年史

中山太郎

各時代の男娼史年考となる事多し。

嬉遊笑覧（「日本隨筆大成」本）

喜多村信節

巻五の下「若衆かぶき」以下、巻九の下「男寵」以

下は考証詳しく男色史の観あり。

寺院生活（「日本風俗史講座」第十巻）

圭室諦成

第三章喝食の節は禅林男色史である。

遊女と若衆（同上第七巻）

伊藤超

一、若道化の社会と女化運動 二、近世女子結髪の

起源に於ける女化運動のあらはれ。若衆礼讃思潮史

である。

日本風俗史（合本二冊）

藤岡作太郎
平出鑑二郎

各時代の男色史を見るべし。

●岩津々志（「三十幅」巻一）

北村季吟

日本男色文学史也。なほ「軟派珍書往来」を並見る

べし。

●犬つれぐ（「江戸時代文芸資料」巻四） 不詳

日本人の男色エッセイとして最も情味に富むもの。徒然草の感情を摸す。僧侶の筆ならんといふ。承応二年刊。

●よだれかけ（右同書巻四） 榎條軒

男色の史的観察詳細にして、犬つれぐと並んで、日本人エッセイの中の優。（和本の部を見よ。）

●男色十寸鏡（翻刻なし。和本の部を見よ）

三夕軒好若居士

普通小説として取扱へども小説に非ず。若衆と念者との心得を説けるもの。一種の男色手引草なり。犬つれぐに次いで情味こまやかなる書。貞享四年板。

守貞漫稿 〔類〕近世風俗志 上下一冊 喜田川守貞

嘉永六年序、上巻第八篇「男扮」下巻第二十篇の内「男色」廿二篇「音曲」卅一篇雜劇、卅二篇雜劇、参考となるべき事甚だ多し。

徳川時代の裏面 明治四十二年刊 秋山黃

簡單なる男色の項あるのみ。

（男色地誌）

●男色細見三の朝（二種の鬚刊本あり）

風来山人

明和五年板。序に江戸に京と浪花を加へ三の朝と題し云々。右は「平賀源内全集」上559頁以下に全文凸版による復刻あり。又、宋刊隨筆百種卷一岡場遊廓〔考〕にも収む。凶入り。

東海道名所記〔澤庵文字全巻二〕 絵入。

浅井了意

寛文中刊行。10頁 17。242 244

東海道名所図会（日本図会全集）下673

寛政九年板。白菊の事。

新編鎌倉志（大日本地誌大系第十九巻）

延宝年中徳川光圀の命により編。白菊の事。貞享二年板。第六巻江島見瀨

年板。第六巻江島見瀨

〔以下〕近世文芸叢書 名所記 第一巻より

江戸雀（延宝五年開板） 菱川師宣絵

37頁 歌舞伎の事。60 渋谷金王椽。

増補江戸咄（元禄七年開板） 不詳

274 巻六第三 狂言画の章男色也。

岡場遊廓考（未刊隨筆第一巻）

京童（明暦四年開板） 中川喜雲

297 卷一 四条河原の章。男色也。

京雀（寛文五年開板）

469 四条の絵あり

難波鑑（延宝八年開板）

489 道頓堀初芝居（巻一）男色也。

一 無軒道治

不詳

虚実柳巷方言（寛政六年）

497 舞台子連名 498 同上心理（大阪新町也）

好色由来揃（元禄年間）

19 卷四 野良出処並女形芸衆形始。

芝と上野浅草

三田村鳶魚

香具屋先生

〔近世文芸叢書〕第二卷 名所記より

鎌倉物語（万治二年開板）

中川喜雲

25 白菊の事

河内国名所鑑（延宝七年開板）

三田浄久

373 兒ヶ池の事、句あり。

〔近世文芸叢書〕第十卷 風俗より

（麓之色）（明和五年）

飯袋子

57 舞子の事、男舞、60 男色の項は詳細なる男色史也。

かくれざと

国学者也 石橋真国

安永天明頃の洒落本より地誌を編めるもの。引用書

目中、「道楽年代記」「契国策」は男娼街を記する意

味にて注目すべし。

廓中一覽（一名浪花青楼志）（享和三年）

不詳

415 串童宅の項 421 若衆女郎の事。

芝居町に御触書（燕石十種）卷三475）

未詳

全文参考となる事多し。

契国策（徳川文芸第五卷）

不詳

181 沢村田之助 185 青坊主の自覚の二章男色也

洒落本なれども江戸岡場所の方角図あり、男娼街の

● 明新宗玄々経（徳川文芸第五卷）

未刊隨筆第一卷

ことを詳記す。安永五年刊。

鐘西翁

明和頃の大坂の男娼連名を記す。洒落本。

名古屋市史 陰間の項写し袋にあり。

清見寺膏薬に関するノート二綴袋にあり。

高野山の伝説（大正十五年板）

水原堯栄

児ヶ瀧のこと

● 宿場のかげま茶屋（雑誌切取）

岩田準一

● 江戸かげまの末路（同）

同人

（男色禁令）

芝居町に御触書（燕石十種）卷三475）

全文参考となる事多し。

慶安より宝暦まで。

百戯述略〔燕石十種新三〕 54 55 56 77 86 〓 91 齋藤月岑

明治初年東京府知事の命によつて差出せる考証。

徳川禁令考（六卷）

徳川禁令考後聚（六卷）

日本法制史

右三書は男色禁令の参考書として最も有益也。

瀧川政次郎

（男色小説）

（江戸及江戸前期の部）

《源氏物語、万葉集、大和物語、今昔物語、古今著聞集其他男色あれども極一部のものは省略する。これら足利前期の文芸作品につきては岩田準一著「本朝男色考」に詳細を極めたり、ついで見るべし。》

とりかへばや物語（平安朝）

未詳

仮名草紙前期の古き作品中最も注目すべきもの。男色ではないが、男子女装、女子男装の着想にエオニズムの味あり、最も著しき文献也。

砂石集（弘安六）

僧無住

家蔵は慶安五年板、男色二三あるのみ。

犬たんか（室町時代）

家蔵若衆物語はこれの改題版本也。

●秋の夜の長物語（応永頃）

家蔵本は寛永十九年版。

●鳥部山物語（応永・応仁）

一説深草元政

●松帆浦物語

一説兼裁法師

●嵯峨物語（文明頃）

●幻夢物語（文明頃）

右六書の内「犬たんか」は又「児教訓」ともいふ。六書とも統史籍集覧見物語部類に収む。又「幻夢物語」を除く五書は群書類従にも収む。

○印の五書は宗教的無常感と結びつけられたるロマンティズムの同性愛小説として比ぶものなき名作である。純粹に男色のみを取扱つた文学を次の三つの段階に分けることが出来る。

一、浪漫精神、宗教的 〓 右の仮名草紙

二、武士の意気地、義理 〓 西鶴武道物系統

三、肉慾、しかし極度に洗練された肉慾 〓 西鶴町人

物系統

花みつ

見物語に継子いぢめを結びつけし物語。有朋堂文庫

御伽草紙に収む。

●稚児の草紙（伝元享元年）

醍醐寺三宝院蔵

詞書写しは写本と江戸軟派雑考とあり。絵十五ほどの内五葉透写しせるもの家蔵。

近古小説解題（平出鏗二郎）より

あしびき（足利時代）

不詳

（青葉の笛物語）（一名「仁明天皇物語」）

刊本は寛文九年

監物草子（二重の殉死）（慶長十二年の実話也）

（朽木桜）（友の死をはかなみ出家）（足利季世）

（小敦盛）

（西行物語）

（信田）（人買ひ）（幸若舞三十六番一也）

（新蔵人物語）（女子男装）

大仏物語（問答体若衆の事あり）（寛永十九年刊）

（月かげ）（一句のみ）（室町季世）

（天狗の大力）（牛若）（万治二年開板）

（笛の巻）（牛若）（幸若舞の本）

弁の草紙（子）（文明十八年以後の作）

竹斎（寛永活字本を最古版とす）

家蔵は天和三年板下巻のみ。外に家蔵活字本には

明倫叢書外集「竹斎物語」滑稽文学全集第一巻 あ

り。上巻に男色の事を長く記す。

新竹斎（家蔵）貞享四年板）一名「竹斎行脚袋」

滑稽文学全集第一巻にも収む。

●毛九津物語（家蔵）

一説林羅山

明治廿八年慶養寺発行、大槻如電編。

●藻屑物語（燕石十種巻二380）

同

●雨夜物語（三十幅巻二）

同

右三書は源を一にせる異本也。対照して興味深し。

近古小説解題藻屑物語の部及追加を参照すべし。三代將軍の時、浅草今戸慶養寺に起りたる男色事実物

語なれど、文情ありて、仮名草子に似たる感あり。

義理物と浪漫物との融合せる作品。

宗祇諸国物語（貞享二年）

家蔵二三話のみ。

好色二代男 巻四、三、四、π也

好色一代男（天和二年）

日本名著全集本「西鶴名作集」上より（ふせ字書入本）

（巻二）十才。（巻二）十四才、十九才。（巻四）卅二

才。（巻五）卅八才。巻五、四十一才。男色也。

才。（巻五）卅八才。巻五、四十一才。男色也。

才。（巻五）卅八才。巻五、四十一才。男色也。

好色五人女（貞享三年）

（巻四）第五話。（巻五）第一、第二、第三、第四。
男色あり。

好色一代女（貞享三年）

（巻一）第二話。（巻二）第三話。男色あり。

（本朝二十不孝）（貞享三年）

（巻四）第四話。純衆道には非ず。

●男色大鑑（本朝若風俗）（貞享四年）全八巻

前四巻二十話は武道若衆。後四巻二十話は売色若衆。男色のあらゆる型、あらゆる心理を描き尽せる

観あり。衆道経典ともいっつべし。

武道伝来記（貞享四年）原本零本所蔵

（巻一）第一、第二、第三。（巻三）第一、第二、第三、第四。（巻四）第一、第四。（巻五）第二。（巻六）第四。（巻七）第二。（巻八）第二の十三話
男色又は男色がゝりたる話也。「大鑑」について男色
多き書。

同上 西鶴名作集 下

西鶴置土産（元禄六年）

懐硯 巻一、巻二πあり

武家義理物語（巻一）第三。（巻六）第四。輪講本家蔵

（巻三）第一。（巻五）第一。男色のことあり。

（西鶴織留）（元禄七年）

（巻五）第一。切戸の文珠のこと。男色には非ず。

西鶴俗つれく（元禄八年）

（巻三）第二。飛子のことあり。

万の文反古（元禄九年）

（巻三）第一。男色惚気消息文。

日本名著全集本「浮世草子集」より

御前義経記（元禄十三年）

73（巻一）一。（巻二）四。（巻五）一。其他全篇に

互り男色の事出ず。

傾城色三味線（帝文「珍本全集」上）
（元禄十五年）

大阪巻第五。263其他可調。 江島其積

大色道傾城禁短気（正徳元年）

原本所蔵 ※頭注「二宗論」 江島其積

女若両道二宗論をはじめ全篇に男色のことあり。

●新版 新小夜嵐（正徳五年）

集巻頭の解説を見るべし。地獄に於ける衆道者生活
を見物して廻る趣向。文面白く挿絵又甚だよろし。

一説 西鶴

(徳川文芸類聚第三巻に収むる。「新小夜嵐」は同名異本也。)

帝国文庫 其磧自笑傑作集 上下

(年代記さす)

諸国物語*頭注〔上巻〕

其磧

(巻三) 全部男色也。三話。

(世間娘気質) *頭注〔サデイズム〕

其磧

(巻四) 478に責めのサデイズムの話あり。珍らしければ。

風流軍配団

自笑
其磧

(巻一) 第二話。(巻二) 第二。男色也。

風流曲三味線*頭注〔下巻〕

其磧

(巻一) 第一、第二。(巻二) 第三。(巻三) 第一、第五。(巻四) 第一。二宗論その他創意多し。又西鶴の剽窃もあり。

原本所載

鬼一法眼虎の巻(享保十八年序)

其磧

(巻三) 第一、第二、第三。(巻四) 第一。其他全体に互り衆道色あり。牛若を主人公として女装などよろしくあり。

(傾城禁短気)(傾城色三味線) 前項を見よ。

傾城情の手枕(寛保四年序)

其磧

(巻三) 第一。(巻四) 第一、第二、第三。(巻五) 第一、第二、第三、第四。「野傾旅葛籠」ノ改題改竄本也《右に抜書した外にも自笑其磧の作には殆んど例

外なく男色味を含む》

好色二代男

(江戸文学研究会編
浮世草子巻六)

*頭注〔女性同性愛〕

西鶴

(巻二) 第四、サファイズム也。珍らしや。(巻七) 第三、男色あり。

好色三代男(同上)

西鶴

(巻四) 第三、第四。

〔友三味線〕にはπなき様也。尚可調

徒然時勢粧(刊本風流友三味線ノ内)

錦文流

享保五年刊。巻六の終りの方。「男色百物語」

(色道懺悔男)(宝永四年刊。右刊本今源氏空船の内)

*頭注〔藤の丸膏薬〕

京善教寺猿算作

175-178巻三に清見寺膏薬の事。挿絵あり。

椀久一世の物語(貞享二。右今源氏空舟の内)

不詳

(巻上) 三。野良也。

帝国文庫 珍本全集 上

懷硯(貞享四年序)

一説 西鶴

(卷二) 第五。(卷五) 第五。

(梅若丸一代記) (天明八年) *頭注「梅若丸」

別に男色はなけれど人買ひの事。梅若丸のこと。

自笑
其積

寛濶役者氣質 (正徳年間)

其積

(卷下) 第三、第四。

熊谷女編笠 (寛政九年)

錦文流

(卷二) 第三。

諸国武道容気 (寛政八年)

(卷四) 第四少し。

正月揃 (元禄元年) *頭注「男色長歌」

白眼居士

(卷三) 第三。男色長歌あり。珍なり。

鎌倉諸芸袖日記 (寛保三年)

自笑
其積

(卷二) 第二。(卷三) 第一少し。

同上 珍本全集 中

諸道聴耳世間猿 (明和三年序)

私訳太郎 (上田秋成)

(卷三) 第三。

御前義経記 (元禄十三年)

西沢一風

(卷一) 第一。(卷五) 第一。又卷二第四、卷四第一

雨月物語 (別に「上田秋成全集」本あり)

上田秋成

菊花の契。青頭巾。

棠大門屋敷

錦文流

(卷四) 第二。

同上 珍本全集 下

武道真砂日記 (安永元年)

月尋堂

(卷三) 勇の部一話。

禁短気三編 (明和二年)

自笑

(卷二) 第二。古市中ノ地藏。(卷四) 四話全部男色。

同上 氣質全集

略縁起出家形気 (明和六年)

自笑

(卷一) 第三。(卷三) 第一。(卷四) 第二、第三。

浮世親仁形気 卷一、野良を楽しむ男色親父

小児養育氣質 (安永二年)

永井堂亀友

(卷五) 第二。

当世銀持氣質 (明和七年)

同上

(卷五) 第二。

同上 続氣質全集

諸商人世帯氣質

其積

(卷二) 第一、役者の台所、香具売。

●和国小性氣質（延享三年）

落九二軒鱗長

全部男色也。「男色大鑑」と同じ短篇集。これはこれにて又特色あり。「木芽漬」と三部合せて男色三大小説集といふべし。〔原本所蔵〕小説年表に元禄六年刊「男色子鑑」の改題再版、又宝曆十二年に至り「囁千里新語」と改題再版とあれど、その「囁千里」は所蔵すれども同本には非ず。内容も異なる。

●男色木芽漬（享保三年）

漆屋園齋

全部男色也。「大鑑」と同形式なれど、筋の面白きもの多く、又別の味ひあり。〔原本所蔵〕

●好色江戸紫（貞享三年）

享保元年「武道江戸紫」ト改題再版ス

石川流宣

衆道を中心とせる長篇小説也。古山師重の名挿絵と共に珍重すべきもの。〔零本巻二所蔵〕

●色の染衣（貞享四年）

江戸立羽不角

これも衆道長篇也。外に「風流比翼鳥」と並せて、短篇集の「大鑑」「木芽」「和国」に对照し、これは長篇の三大作と云ふべし。〔零本所蔵〕なほ長篇につきては「列伝体小説史」参照。

（野傾友三味線）（野傾色競馬）（宝曆五年）*頭注「（前出）」

団水或は一風

半ば男色也。〔零本巻三所蔵〕
役者色仕組

其積

〔零本巻一所蔵〕

●男色鑑（宝曆二年）黒本（再刷）青本。

詞のみの謄写版刷を所蔵。絵本也。

囁千里新語（宝曆十二年）

小説年表にいふ所と全く異り男色はあれども一部分のみにて、文体も異り面白からぬ本也。「和国小性形氣」とは似ぬもの也。〔原本所蔵〕

芝居万人葛かつら（家蔵）年代作者不詳

小説年表にもなし。八文字屋類似の種本。男色あり。

〔江戸時代文芸資料 五巻〕

（五ヶ津余情男）（二）6

都の花風

元禄十五年板。男色の事は一頁程。

野傾友三味線（二）

北条団水或は西沢一風

宝永五年板。卷一女若二宗論。卷二ノ一、三。卷三

ノ一、三。卷四ノ一、三。卷五ノ五

（猿源氏色芝居）（二）461 484 486

九二軒鱗長

享保三年。男舞、踊子の事。参考すべし。

本朝浜千鳥（三）

京永井正流

宝永四年。卷一の第一話男色也。二宗論あり。

●風流比翼鳥(三)

東の紙子

宝永四年。二人若衆念者の助力を得て親の仇を討つ

物語。男色長篇小説として「江戸紫」などと共に珍

重すべし。

(関東名残の袂)(三)

忍岡やつがれ

宝永五年。江戸役者中村少長を主人公とし当時若衆

かぶきの情態を描写す。同性愛はなし。

(筆の初ぞめ)(三)

今西鶴

宝永年代。西鶴「懐硯」の剽窃多し。巻五第四話若

衆に化けた女の話。

恋慕水鏡(四)

京山八

天和二年板。巻一第一話。巻三第二話。男色也。

(浮世栄花一代男)(五)

西鶴の序あり

元禄六年板、貞享年間の「好色四季咄」の改題。後

又元禄十一年には「好色堪忍記」正徳三年には「浮

世花鳥風月」と改題。純粹の男色はなけれど、巻一

第二、三話など女子の若衆買ひにて、参考となる事

あり。

(色里三所世帯)(五)

西鶴

刊本現存せずと。京の巻第四話に四条河原の野郎の

事あり。

真実伊勢物語(五)

序西鶴

右書より二年後刊。巻三の第四は男色也。

好色小柴垣(五)

醉狂庵

元禄九年板。巻三第三話男色也。(小間物売)

新色五巻書(五)

西沢朝義

元禄十一年板。一風の浮世本処女作。巻四第二、巻

五第一男色也。

元禄太平記(五)

都の錦

元禄十四年作。巻三第四話。巻八全体(役者評判記

なり)

風流呉竹男(五)

江戸奥村政信か

宝永五年板。巻三全部男色也。

野傾旅葛籠(五)

江島其積

正徳五年板。延享元年「傾城情の手枕」と改題。巻

一卷二全部男色也。*頭注「以上「江戸時代文芸資料」了

近世文芸叢書 卷三、四、五より

当世誰が身の上 六冊 宝永七年板

涼花堂斧磨作

卷三男色は切生の弥猛

(他我身の上)(明暦三年刊)

山岡元隣

(三) 493 僅かに男色に言及せるのみ。(隨筆体)

武道張合大鑑(不詳) 北条団水か

(四) 91 卷三第三 男風流名よせは一部男色なり。

当世乙女織(宝永二年板) 錦文流

(四) 142 卷四第一 男雛形歌書尽し、男色なり。

心中大鑑(宝永元年板) 書方軒

(四) 223 卷五第一 血首の三つ巴、男色なり。

今様二十四孝(宝永六年板) 月尋堂

(四) 卷一第四話。卷二第二話。卷三第三話。卷四第

四話。男色物語なり。又卷三第一話、第四話に男色

の事を記す。

(風流今平家)(元禄十六年板) 西沢与四(二風)

(四) 417 418 野郎かるた。役者かるたの事を記す。

傾城風流杉盃(不詳) * 頭注「二宗論」 八文字屋風

(四) 547 大阪の卷第四話男色なり。奇なる二宗論あ

り。

女大名丹前能(元禄十五年板) 西沢与四(二風)

(五) 男色生田敦盛、柴舟現在業平、旅寝の夢衆道忠

度、尋ね来て見る柏崎、間狂言青葉の笛の諸項その

他物語は女色を主とすれども全篇衆道の匂に満つ。

元禄歌舞伎と同じ行き方。48 57 外良若衆の事あり。

傾城難波みやげ(宝永七年板) 不詳

(五) 281 卷二第一話に野郎遊びの事あり。297 卷三第二

話にも男色あり。

千尋日本織(宝永四年板) 団水序 東武の神秀法師

(五) 卷三第一、第三。卷六第八。男色也。

美景時絵の松(宝永五年板) 市中軒

(五) 卷三に伊セ山田の野郎買ひの事あり。

俗風傾性野群談(享保二年板) 八文字屋自笑

(五) 卷四第一。卷五第二、第三。男色也。山田古市

中ノ地藏の野郎の事あり。(五) 419

(傾城太々神楽)(宝永二年板) 不詳

(五) 卷四第一話に男色の事あり、

ママ 文世文芸第十 麓の色 卷五男色

徳川文芸類聚 卷一 事实小説

風流夢浮橋(元禄十六年板) 雨滴庵松林

30 卷三第一 無常を忘四條の水。男色なり。(おつま八

郎兵エ)

忠義太平記大全(享保二年板) 不詳

赤穂浪士の事を事実近くに小説化せるもの。当時と

しては珍らしき作也。男色の事散見す。事件の原因

を小姓への恋慕となせる事注目すべし。 212

風来金唐革（天明二年刊）

平賀源内をモデルとせる小説。男色の事あり。

（観延政命談）

卷一第一、芝居役者梅幸が事並音羽屋油見世之事。

（延命院日当の事）

徳川文芸類聚 卷二卷 教訓小説より

可笑記（寛永十三年作）

9 卷一157卷五 二話あり。

如備子
（湯村式部）

為愚癡物語（寛文二年板）

卷四第五、小童を召使には万念を入仕べき事一話。

子孫大黒柱（宝永六年板）

卷二第四486野良の事あり。

庭訓染匂はなびくま車（）

卷一は一、二、三とも全部若衆道の事也。前三書に

比べて、これは教訓味薄く殆ど小説也。

右書 第三卷 遍歴小説より

（三千世界色修行）（明和十年板）

280に少しく言及せるのみ。

右書 第四卷 怪談小説より

新百物語（元禄五年板）

卷一第三。卷五第一の三話あり。

狗張子（元禄五年板）

卷五第一、第三第六。男色也。（卷六、二、三、五、

天狗の事。）

怪醜夜光魂（享保二年板）

卷二第七。卷五第十七、第十九。男色也。（卷二若衆

色仕掛けで敵討。）

（太平百物語）（享保十七年板）

卷一第七。卷二第十二、十三。卷三第廿五。卷五第

四十八。凡て天狗の話。

（怪談登志男）（寛延三年板）

卷一第二。卷五第廿五、廿六。最のものは「天狗誘

童子」。凡て天狗。

万世百物語（寛延四年板）

卷二第八。卷四第十三。卷五第十八。三話とも男色

也。山賊の美童その他皆面白き話也。

徳川文芸類聚 卷五卷 洒落本より

聖遊廓（宝暦六年板）

大阪酒客本の祖

不詳

尚日本名著全集本
「怪談名作集」を見よ。

洛下俳林子

積了意

危洛隠士音久

市中散人祐佐

江戸山本好阿か

江戸東都隠士烏有庵

遊子と支那の名士にたとへたる洒落本、男色の事多し。

辰巳之園（明和七年板）

夢中山人

男色はなけれど、役者の商売の事、芳町の噂などあり。
[地誌]

（南国雑話）（安永二年板）

夢中山人

「野郎の玉虫」の語。

契国策（安永五年板）

不詳

男娼街の噂多く、[地誌]を知るに便あり。遊里方角図。

●芳深交話（安永九年板）

穴好

男色味濃厚。当時のかげま買ひの様子見るが如し。

●嬰新宗玄々経（天明年代）

大阪 鐘西翁

男色論。男色史、男色語彙の戯文也。巻末に大阪の舞台子陰間の芸名をのせたり。

●二国連璧談（燕石十種新）[五206]

平秩東作

全部男色戯作。源内と芳沢国石との事実を戯作せるもの。清見寺の事出づ。

●根南志具佐（宝曆十三年）前後十卷

風来山人

荻野八重桐二つの女形墨田川にて溺死せるにちなみ、地獄巡りの戯作也。名文朗々唱すべし。前篇五

卷のみ**原本所蔵**。**平賀源内全集**

驪山比翼塚

（風来山人弟子）

源平藤橘

権八と長兵エのこと。男色味あり。可読。

右二書は**平賀源内全集**及**帝文風来山人傑作集**を見らべし。

実説名画血達摩 不詳

不詳

帝文続仇討小説集に収む。

敵討名残広記

家蔵血達摩の物語なり。

細川血達摩（明治二十二年 淺草 金寿堂版）

東京 清水義郎著

銅版本、絵大きく面白し。**家蔵**

兒ヶ淵誓仇討（文化六年板）

月池山人作
北尾重政画

白菊の物語。帝文**名家短篇傑作集**に収む。

華雪吹若衆宗玄（文化十年）

柳亭種彦

三津瀬川上品仕立（文政三年）

同人

右三書**原本家蔵**

同人

美少年始**家蔵**

一九作

田の助曙草紙**家蔵**

同人

白縫譚（初編嘉永二年）**家蔵**

柳下亭種員

● 賤のおだまき家蔵

何時頃の作か不明なれども明治十七年の序文ある刊本あり。家蔵は大正五年湯島文教社版。カーシユ・ハークが日本のホーマーと称したる書。

野傾文ほうご大全（享保頃か）

小型横本一より廿八まで大部分女郎の文、内十九、廿、廿一の三つだけ野郎の文。写し袋にあり。

(男色小説)

(明治以後の部)

● 新体少年姿 (明治十九年板)

全部美少年讚美の長詩。平田三五郎、白菊、上田俊一郎、梅若丸、鳥屋福寿丸、寿蘭丸、大川数馬の七人。珍本也。

山田美妙

ひげ男 (明治廿九年板)

戦国時代の物語。武士同性愛のことあり。

幸田露伴

● 童貞 (大正五年板)

女性的少年の夢を描ける短篇集。同性愛精神の作。天体嗜好症 (昭和三年板)

山崎俊夫

稲垣足穂

それと露はならねど、短篇小説の裏を流るゝは余りに強き同性愛精神である。

● 惨めな人々。男色文学。静なる復讐。

変態資料第三卷二号一四号に連載。老人にのみ愛着を感じる特異の同性愛文学。

綿貫六助

● 男娼日記 (昭和六年板)

十銭本PR叢書の一。

流山龍之介

卅まんじ (全集にあり)

谷崎潤一郎

キタ・セクスアリス

鷗外

(演劇・舞踊・歌謡)

訂改 日本歌謡史

全篇に男色の事散見す。その部分に赤鉛筆印を施したり。

高野辰之

日本演劇史

近世日本演劇史

伊原敏郎

明治演劇史

散見。多くは印をつけ置きたり。

歌舞妓年代記

談洲楼焉馬

続歌舞妓年代記 (「新群書」四にもあり)

豊芥子

続々歌舞妓年代記

田村成義

右は索引参考とすべし。

演劇史研究 (三冊)

東大 演劇史学会

歌舞伎劇の女形 (吉川義雄)

第一輯

役者評判記年表 (高野辰之)

若衆歌舞伎と其時代 (鈴木英輔)

第二輯

元禄期の女形 (吉川義雄)

能楽に於ける女形 (戸田松三郎)

第三輯

歌舞伎劇の悩みと女形芸術 (吉川義雄)

能 研究と発見

野上豊一郎

「子方の舞台の効果」の章、同性愛的解釈也。

世阿弥十六部集 全

吉田東伍校註

世阿弥自身男籠を利用して能を盛んならしめた人物

として興味あるのみならず、彼の言説にその句を探

るべし。

女形の研究

長谷川善雄

同性愛精神に充つ。

芝居風俗

三田村鳶魚

芝居から出た染模様。男色の大特化。男女美醜論。

柳腰の研究。元禄好みの若衆型。同性愛無二の表徴。

ちよいくの本尊。女形種々。等の項あり。

川柳江戸歌舞伎

西原柳雨

芳町。男娼。役者を標榜せる物件。等男色に關す。

歌舞伎の風俗 (日本風俗史講座) 第九卷

伊原青々園

男色の事あり。

能楽史 (同上 第九卷)

佐成謙太郎

日本舞踊史 (同上 第九卷)

岩橋小弥太

近代舞踊史論

小寺融吉

日本近世舞踊史 (東洋芸術史講座)

小寺融吉

嬉遊笑覧 (隨筆大成本) 上、若衆かぶき以下を見よ)

喜多村信節

劇場新話 (温知叢書 卷三)

不詳

文化の初に出たる書らし。演劇史である。

猿楽沿革考 (燕石十種 530)

川崎重恭

猿楽伝記 (温知叢書 八)

不詳

元文頃

新群書類従 (卷一より卷九まで参考すべし)

芸鑑 (新群書 三5、6)

富永平兵衛

あやめぐさ (同三11、13)

〔よし沢あやめの言葉 福岡弥五郎述〕

耳塵集 (同三22)

必能院敬信聞書

続耳塵集 (同三31)

民屋四郎五郎撰

右四書は「舞台百ヶ条」「賢外集」「佐渡島日記」と

共に役者論語と称せらるゝものにして、若衆方、女

方の心理を描きて妙と為す。男子女性化の秘方、若

衆全盛時代の役者心理面白し。右に記した頁はその

内男色に関係あるもの。

⑧稀補伊勢歌舞伎年代記

二百部限定版の内九十二号

吉田暎二編

守貞漫考類聚近世風俗史 上下一冊

喜田川守貞

嘉永六年序。八篇、廿一篇、卅一、卅二篇演劇に関

係あり。

作者年中行事（嘉永元年序）

三舛屋二三治

119頁念者之嘶にπあれども、最早やこの頃は殆と関

心なし、残韻のみ。（珍書刊行会叢書第四冊）

（男色能、幸若舞）

本朝男色考

岩田準一

男色能の曲目を列举せり。

新群書類従 第八卷 舞曲（幸若）

志田、敦盛、笛之巻、鞍馬出、など一読すべし。（未

読）

コ、マデ28日 コ、ヨリ随筆ニ飛ブ

（男色劇）

御曹司初寅詣（新群書三376）

近松門左エ門

全篇男色には非ず。前後に男色の事を出し、起請血

判などあり。当時の劇にはどこか一ヶ所男色を加へ

る例なりしが如し。男子女装、女子男装等のことも

多し。男色的色気を盛る為なりしならん。

傾城三鱗形五番続（同3402）

不詳

劇中、盛遠とあいきやうの三郎知契の事あり。女装。

一谷坂落三番続（同3438）

不詳

熊谷と敦盛の男色を初に出だす。

（隅田川）（同5319）

山本土佐掾（正本）

梅若丸誘拐のこと。人買ひ。男色に非ず。天狗児さ

らひ。

（出生太平記）（同5387）

薩摩外記（正本）

美少年徳寿丸を扱ふ。

新群書類従 第九 歌曲 *頭注「金平本」

金平浄瑠璃を集む。未読

以下「元禄歌舞伎傑作集 上巻の内」

参会名護屋

〔中村明石曹三郎
市川団十郎〕

兵根元曾我

同

関東小六

不詳

源平雷伝記

市川団十郎

一心女雷師
和国五翠殿

(傾城三鱗形) * 頭注「前出」

頼政万年歴 (女子同性愛)

鬼城女山入 (酒呑童子)

傾城浅間曾我

成田山分身不動 (若衆実は女)

小栗十二段

傾城角田川

追善彼岸桜

以下「元禄歌舞伎傑作集」下巻の内

百夜小町

丹波与作手綱帯

武道達者

万歳丸

和国風流兄弟鑑

大雑書伊勢白粉

傾城壬生代念仏

加州桜谷血達磨

(正徳二年序
細川血達磨マの最古)

* 頭注「血ダルマ

血ダルマの事は西沢一風「伝奇作書残篇」

不詳
三舁屋兵庫

不詳

不詳

同

同

市川団十郎

三舁屋兵庫

不詳

中村清五郎

近松門左エ門

富永平兵衛

(富永平兵衛
平山豊後)

白石彦兵衛

不詳

小島彦十郎

近松門左エ門

不詳

を見よ。別項」

以上二十二曲は、全篇男色を中心とするものはないけれど、前述の如く当時の見物の好尚にもねる為、前段に於て男色の事を仕組むことを慣はしとせしものの如し。何れも男色味横溢也。

心中宵庚申 (上の巻衆道也)

近松門左エ門

(有朋堂文庫近松浄瑠璃集) 下)

心中万年草 (上の巻衆道也)

近松門左エ門

(同上書中巻)

(名著文庫歌舞伎脚本集)に古きものあり。可検)

百千鳥曲輪曾我 (歌舞伎細見 390) * 頭注「血ダルマ」

血達磨の江戸狂言宝曆四年、佐野川市丸の犬坊丸との衆道。

浅草靈驗記 (同) * 頭注「血ダルマ」

近松徳叟

印南数馬。寛政九年の血だるま。大阪初演。実録によれるもの。当時衆道の狂言珍らしく大当りなりし

と。寛政にはまだ好尚の名残りありしにや。

男結盟 立願 (同) * 頭注「血ダルマ」

右を寛政十二年江戸市村座にて上演。菊之丞の印南

数馬。兄弟分契約のところ大評判とあり。

●氏神詣（別掲「芸鑑」に梗概をのせたり。同書より日本

演劇史（54）に引用す。）

全然男色的一幕喜劇也。

（徳川文系第六巻脚本上は男色あるらし未読。）

（男色の意味にての役者評判記）

古今役者物語（江戸時代文芸資料巻四）

菱川師宣絵

延宝六年板。（複製本家蔵）

かぶきのさうし（同書巻四）

詞書伝 烏丸光広

慶長或は寛永頃。徳川家蔵。

演劇史研究第 第一輯

東大演劇史学会

役者評判記年表（高野辰之編）を収む。

野郎虫（万治三年）（稀書複製会本）

京

野郎大仏師（寛文七年）（同）

江戸

剥野老（寛文二年）（書物往来叢書）

江戸

垣下徒然草（同十一年）（同）

野郎三座詫（貞享元）（同）

難波立聞昔語（同三）（稀複本）

大阪

蓑張草（元禄四）（同）

上方

四場居百人一首（同六）（演芸珍書刊行会本）

姿記評林（同十三）（珍書保存会本）

「書物往来」合本（別項雑誌の部を見よ）

「新野郎花垣」「雨夜三盃機嫌」「延命字学集」「逸題

野良評判記」「難波の顔は伊勢の白粉」等について記

せり。

書目集覧 二冊（書目の部を見よ）

評判記の散逸せるものの書名を知るに便也。

赤烏帽子（寛文三年板）

不詳

伊勢古市野郎評判記（徳川文芸類聚第十二巻）評判

記）

諸役者金の揮（内容享保十三年マデ）（珍書刊行会叢書第四）

野良評判に非ズ。

滑稽文学
全集内容

第一巻 竹斎物語、新竹斎、膝栗毛

第二巻 膝栗毛、滑稽二日酔、成程根般一九作、反古張

障子

第三 諸道聴耳世間猿、諸芸独自慢、浮世風呂、浮世床、

女浮世床、人心覗機関

第四 七癖上戸、四十八癖、古今百馬鹿、一盃綺言、人

間万事虚計、八笑人、牛島土産

第五 田舎芝居、田舎草紙、戲場粋言幕之外、素人狂言

紋切形、反古張障子続篇、和合人、七偏人

第六 根無草、金の生木、指面草、壳色安本丹、雑談紙

屑籠、江之島土産、酩酊氣質、魂胆夢輔譚

第七 風俗遊仙窟、地獄楽日記、風流志道軒伝、和莊兵

衛、同後篇、見外白宇瑠璃、夢想兵衛胡蝶物語

第八 仁勢物語、くせ物語、戯男伊勢物語、それく草、

狂歌著聞集、猿著聞集、精進魚類物語、鴉鷺合戦

物語、貧人太平記、御伽夜話

(九欠)

第十 理屈物語、私可多咄、嘶物語、枝珊瑚珠、軽口露

がはなし、鹿の巻筆、正直咄大鑑、露新軽口はな

し、軽口御前男、軽口居合刀、軽口あられ酒、露

休置土産、徒然御伽草、新話笑眉、軽口福藏主、

軽口福多くぼ

第十一 福祿寿、軽口利益咄、軽口機嫌袋、軽口耳過宝、

初音草咄大鑑、軽口福徳利、口合恵宝袋、軽口

東方朔、軽口太平楽、軽口片頬笑、鹿の子餅、

譚囊、軽口大黒柱、軽口曲手鞠、楽牽頭、聞上

手、出放題(滑稽文学全集九、十、十一、十二笑話也、

未説)御伽草、軽口五色帯、高笑、かたいはな

し、笑府衿裂米、滑稽即興嘶、春笑一刻、鯛の

味噌津、うぐひす、言葉の花、戯聞咄、梅余史、

江戸前嘶鰻

第十二巻也

(男色笑話)

醒睡笑(落語全集本)日本随筆大成三期巻二(674以下)

安楽庵策伝

両書とも見るべし。赤印をつけ置きたり。男色笑話。

巻六児の噂、若道不知其他。

戲言養気集(宋刊随筆百種巻八)

柳亭云元和年間の活字本也。半は「きのはけふの物

語」と語は異なれど話は同じ。即ち男色笑話夥し。

鹿のまき筆(燕石十種)巻三(364以下)痴滑

鹿野武左エ門

元禄五年著。目次に印を附したり。純男色五話。

きのふはけふの物語(江戸時代文芸資料巻四)不詳

慶長活字本を最古とす。最古の笑話本。大部分男色

也。

近世文芸叢書 第六巻 笑話より

百物語（万治二年）文醒睡笑に似たり

不詳

19 男色一話あり。純男に非ず

私可多咄滑（寛永十一年）

中川喜雲

男笑話。

稿話 鹿の子餅滑（明和九年戸江）

卯雲

一休咄（寛文初頃）

不詳

狂詩

二話（滑稽文学全集）には安永元年戸江とあり

未詳

一休閑東咄（寛文十二年）

不詳

男色一話及狂詩。

噺物語滑（延宝八年）

幸佐

男一話あり。

曾呂利狂歌咄

安楽庵

枝珊瑚珠滑（元三）

石川流宣

一話。

486 502 二話。
（諺ことわざ 臍へその宿替）

軽口露がはなし滑（元禄四年）

京露の五郎兵ヱ

男色四話あり。

尻喰しつむひ観音。

洛下寓言子序

正直咄大鑑滑（元禄七年）

石川流舟（流宣）

二話。

初音草噺大鑑滑
608 621 629 三話。

東都書苑 武子篋編

露新軽口ばなし滑（元禄十一年）

露の五郎兵ヱ

二話。

今歳噺（巳の初春）
684 「市松」尻がたとる話。面白し。

軽口居合刀滑（元禄十七年）

不詳

一。

口拍子（右今才噺の附録）
702 一話。

軽口都男（宝永年間）噺相模也

三都名人の作を集む

軽口はるの山
797 一話。

寿々葉羅井（安永八年序）

戯撰者志丈

879 888 二話。

軽口浮瓢筆（未のとし）

序 探華亭羅山

1021 1030 二話。

滑稽文学全集調べる。（第九卷欠本）

滑稽文学全集八、十、十一の三巻より

それく草（享保四年）

京芭蕉門人 乙州

(8) 157 一話。

つべこべ草（天明六年板）

京 盧橘庵

(8) 194 一話。

理窟物語（寛文七年）

径山子

(10) 19 一話。龍陽君を女と誤記せり。

正直咄大鑑（元禄七年）*頭注「重出」

江戸 石川流舟

(10) 363 小僧はかつけの薬の句。

今月（昭和十一年十月）ノ「旅と伝説」七九―八五頁ニ「婦人の腹中の瘡を治した話」ヲ出シ候。其内八四頁ニ「西洋でも遠き昔は、医術の手段不備たりしより今から思へば丸腔の様な変な方法を執た物

で、希臘の古方に、慢性痢病を瘥すに、患者の非路

を犯し乾かすのが有た（一八四五年ハレ板、ロセンバウムの微毒史二一五頁）。本邦にも南風を脚氣の薬と云伝えた事、元禄七年板、石川流舟の正直咄大鑑に出で、未摘花四に「脚氣のくすりにと玄恵おひ廻し」とある。是等の療法果して百中したか否かを知ねど、久しい間種々と試みた者故、中には争はれない発明発見も有たゞろう」。コノ外色ヲ脚氣ノ薬トイフ事イカナル事カ、右二書ノ外ニモ御見当リアリヤ、一寸伺上候、敬具

（十月四日附）

軽口御前男（元禄十六年）

大阪 米沢彦八

(10) 411 恋の出来蔵。

軽口為合刀（元禄十七年）*頭注「重か」

大阪 不詳

(10) 453 侍鹿相の事。

新話笑眉（正徳二年）*頭注「重」

江戸 不詳

(10) 552 初心な狐。(10) 569 野郎の心中

軽口利益咄（宝永七年）

上方 空言堂露嫌

(11) 31 小性。

軽口機嫌囊（享保十三年）

上方 松泉編

(11) 59 つくろひ物は尻から。

軽口耳過宝 (寛保二年)

京洛風之

(11) 83 四人が口々。(11) 87 不了簡。

初音草嘶大鑑 著 (安永五年再版)

京寓言子

(11) 117 野郎の実種。(11) 145 手をとる業平の倂。

(11) 153 挨拶はすまた拍子。

口合恵宝袋 (宝暦五年)

上方 春松子

(11) 196 唐人の若衆。(11) 198 ぐわんかけ。

軽口春の山 (明和五年)

上方 不詳

(11) 253 河太郎のいけん。

楽牽頭 (永永元年。)

江戸 稲穂編

(11) 387 契約。

(男色和歌、狂歌、川柳)

●本朝男色考

男色和歌を多く引用せり。

岩田準一

雄長老狂歌集 (狂文狂歌集 47 50)

建仁寺雄長老

吾吟我集 (同 90 寄若衆恋)

石田未得

古今夷曲集 (同 120 124 133 137 138 139 141 148 151 161 166 序文中にも男

色) 大阪 生白堂行風

後撰夷曲集 (新群書 第十 83 108 114 117 119 121 122 124 139 141 144 147 155)

同

狂歌百種歌合 (狂文狂歌集 285 293) 池田重郎右エ門正式

(頒下養狂歌集 (同 307 309 318 320 321 322 323 325 326 327 328 330 331 334 335 338))

半井卜養

この集は殆ど全篇若衆との遊びをよめるものなり。

狂歌鳩の杖 (同 349)

男山八幡 豊蔵坊信海

貞柳翁狂歌全集類題 (同 394 397 401 413 416)

由縁斎貞柳

狂歌若葉集 (同 538 553 555 560 562 573)

〔唐衣橋州 平秩東作其他 蜀山人等

万載狂歌集 (同 621 623)

徳和歌後万載集 (新群書 第十 297)

家つと (同 第 10 401 407)

油縁斎貞柳

六樹園家集 (同 第 10 458 459)

夷歌百鬼夜狂 (新群書 第十 511)

以上狂歌集は日本名著全集の「狂文狂歌集」「新群書

類従」第十巻、岩波文庫本「万載狂歌集」「徳和歌後

万載集」の四書による。この四書互に相重複せり。

誹風柳多留 (上中下) (初編より百六十七篇まで) 柳多留全集刊行会

近世文芸叢書 第八第九 (柳多留三十篇まで)

柳多留の中には無数の男色川柳がある。右の全集本

に大略印をつけて置いた。外に「袋」の中に抜書も

ある。

誹風末摘花(写本)和本の部参照。

これも印がつけてある。

武玉川(名著文庫[川柳雑俳集])

初篇より十八篇まで。男色のものには印を付けてある。

誹風柳樽通釈 第一、二、三まで三冊

武笠山椒

末摘花難句註解(膳写版)

五猫庵人

川柳変態性慾志(限定)

佐藤紅霞

川柳江戸砂子(芳町の部)

今井卯木

川柳吉原志(第八篇第五章陰間、地紙壳)

西原柳雨

川柳江戸名物(男色は無し)

同

川柳江戸歌舞伎(全体に)

同

右七書の内最後のもの最も参考となる。

諸国落首咄(帝文珍本全書中)

十元録
十一年

露の五郎兵エ

351(巻一) 382(巻五) 387(巻五) 388(巻五) 四十強

狂歌あり。衆味少キ故省

(男色歌謡)

日本歌謡史

散見するものをおさへし。印あり。

高野辰之

淋敷座之慰(新群書六264)

寛永より延宝までの流行歌を集めしもの。野郎万

才。野郎祭文。野郎くとき木やり。若衆くとき船歌等あり。

歌謡音曲集(日本名著文庫)

未読。探索すべし。

近世文芸叢書 第十一卷 俚謡より

御船唄留(文化五年写)

向井将監秘板

123年のよはひ。116花笠踊。135月見。135花揃。142加田

の浦。146若衆揃。150武蔵野。154 155 157思へば永し。164

平がすり

音頭 二見真砂(「声曲類纂」所載の二見真砂とは別物)

211たわれ天狗。

御町々盆踊文句(安政年間、出羽庄内の盆踊歌一枚摺を

集めしもの)

徳川文芸類聚 第十卷 俗曲下より俗曲上にはなき
様なり尚可調。

色竹蘭曲集(土佐節端物)(享保頃刊)

6袖鏡きくのさかづき。57蓮生坊道行(男色に非ず)

「声曲類纂」見るべし。

歌撰集(宝暦九年)めりやす也 江戸浅草伊セ屋吉十郎板

238 幾久慈童。(男色の描写あり)

明治以降男色唱歌 (断片)

稲垣タルホ氏の記憶せるものを写し置きたり。袋に在。

(男色戯文)

●弘法大師一卷之書 (和本の部を見よ)

(一名「醜道秘伝」と名づけたる写本もあり)

●野郎実語教 (宋刊随筆「百種」卷一、岡場遊廓考の内122頁以下)

嗜兒軒好遊子の序あり、同人作。絵入。

●野郎分の手引 (右「実語教」の追加一帖也)

跋に惟時元禄柔兆困敦才晚秋云々。

●若道之勸進帖 (三十幅 卷四)

勸進帳に擬したる男色戯文。引例多し。

●古今若衆序 (三十幅 卷四)

古今和歌集に擬したる男色讚美戯文。

右二書は「軟派珍書往来」にも。「三十幅」本より引用せり。

近世文芸叢書 第七卷 擬物語より

仁勢物語通補抄 (天明四年板)

109 穴堀百段。自からおかす戯歌面白し。

尤の双紙 (作は是利時代 寛永十一年板)

全体に互つて男色ことあり。印をつけ置きたり。不詳

(新つれく草) (宝暦明和の頃作)

454 野郎中居の語あるのみ。

(男色猥褻物)

●男色絵巻 (透写五葉) (巻物)

醍醐寺三宝院の絵巻の三分一程の写し也。

●男色掛軸 元禄より少し後の画風 (軸)

●男色山路の露 (三巻本の下を欠く) 西川祐信

墨刷横本二冊。

●男色五姿 (原作者未詳模本極彩色) (巻物)

舞台子、影子、児、小姓、地若衆の五姿也。化政度

頃の画風か。

●男色図 (絹大式紙三葉極彩色) 橘小夢

同性サデイズム図 (絹五葉巻物) 同人

通俗堪鹿軍談 (男色の部のみの写本)

(九篇) 肛門に鉾をかざる腎立は帷幕の内の唾物。

江戸志水燕十

(十篇) 慈童の昔は七百余才爰に衆道ハ初物の七十
五日。

旅枕五十三次 (男色の部のみの写し) 水沢山人 玉の門主人

袋井、江尻、見附の三葉。

新日暮里物語 (卷二第三回の絵一葉写し) 妙開程由画

恋の太棹 (上、久松と番頭の絵写し)

同書 (中、吉三郎と釜屋武兵エの絵写し)

星月夜糸の調 (地「しまや」の絵写し)

艶道日夜女宝記 (衆道仕入の文及絵写し)

大みなと (下、乱菊枕衆道の絵写し)

絹ぶるい (男色挿絵五葉写真)

阿奈遠加之 全一冊 活版本

註釈つきのよき本也。男色の事多し。

枕文庫

第二編巻一に衆道の論あり写しあり。

漢齋 白水編述
袋の中

(男色)に關係ある絵画)

浮世絵の顔

浮世続

風流四方屏風

役者絵づくし

吉川観方著

師宣

鳥井清信

古山師重

やまとの大寄

姫男なさけの遊女 (上巻)

絵本玉かづら (下巻)

菱川師宣画譜

人倫訓蒙図絵

好色訓蒙図彙 (一冊のみ)

国真画「鷹匠若衆」(長絵軸)

歌舞伎若衆立姿 (長絵複製)

善光寺蔵「美童図」六葉写真

元禄前期の歌舞伎若衆の肖像画也。元は宝物館に陳

列せり。

鬼子母神
御利生 変生男子 (複製口絵切取)

「岩つゝじ」挿絵写真六葉

《外に笑絵は別項を見よ》

日本著名文庫「風俗図絵集」

6 「和国諸職絵図」ふでゆひの図 (徒弟若衆) 師宣

10 11 同書、かみすき図、よろひさいく図 (徒弟若衆)

38 「和国百女」(若衆) 師宣

105 早川はつせ、中村七三郎像 清信

114 佐野川万菊像 (色子) 政信

116 瀬川菊之丞像 鳥居清満

(和本の
部参照)

師宣

西川祐信

国真

鳥居清長

丘 岩佐又平

袋 袋

137 「大和耕作絵抄」大名行列

石川流宣

(江戸時代男色随筆)

174 「同」小姓出仕の図

”

嬉遊笑覧〔随筆大成〕

喜多村信節

189 「同」小姓外出御供の図

”

「若衆かぶき」以下十数項（五巻下）大成本上

198 「同」若衆盆踊図

”

「男籠」以下十数項（巻九下）

大成本下

212 「同」重陽図

”

高野六十奈智八十（巻十二下）

222 「同」能つら見せ図

”

塩尻（上下二冊）〔帝國書院本〕

天野信景

234 「同」若衆相合傘図

”

（上巻）30頁 382 660 693 767（下巻）270 288 401 403 594等の頁を見よ。又下巻末の索引を見るべし。

304 「絵本花葛蘿」若衆図

鈴木春信

塩尻（上下）〔日本随筆大成第三期巻九巻十

同

438 「役者夏の富士」全体に亘つて。

勝川春章

松屋筆記（三巻）〔国書刊行会本〕

高田与清

485 「絵本満都鑑」舞台子の色姿（よろし）

下河辺拾水

目次に鉛筆にて丸印を附したるケ所男色也。

*頭注「よき絵」

”

甲子夜話（上下）〔随筆大成第三期巻七巻八

平戸城主 松浦静山公

490 「同」敦盛一ノ谷図

”

（上巻）622頁（下巻）483其他にも多くあるべけれど、目次も索引もなき為通読の外なく未だ果さず。

742 「絵本家賀御伽」(体全) 小児遊技、おもちゃ。

長谷川光信

一話一言（上下）〔随筆大成〕別巻

750 「同」小田原外良若衆図*頭注「外良」

”

〔新百家説林〕巻四、五）

761 「絵本御伽品鏡」蓬艾売

長谷川光信

大田覃

762 「同」もちや丁稚

”

目次に丸印を附したるケ所男色也。

768 「同」蒲焼屋丁稚

”

翁草（上中下）〔随筆大成〕三期巻十一、十二、十三

835 「女中風俗艶鏡」若衆図

西川祐信

神沢貞幹

高野山靈宝館蔵 絵本 靈宝子 写真

国宝

（上巻）84頁 219 370 743 746（中巻）107 121 587 591 646 687 740 743 751

769 (下巻) 119 | 122 遺漏あるべし。
海録 365 431 496 504 488 526

山崎成美

以下隨筆大成本

梅村載筆(一期一卷) 44頁

筆のすさび(一・一) 100

春波樓筆記(一・一) 399

柳亭記(一・一) 704 709 716

尚古造紙挿(一・一) 791 堺町の図

松屋棟梁集(一・二) 144

近世女風俗考(一・二) 291 365

蘿月庵函書漫抄(一・二) 512

煙霞綺談(一・二) 600

柳亭筆記(一・二) 625 639 646 667 702 708 712 721

引用文多く面白き記事多し。

橘窓自語(一・二) 791 (799 801) 806 816

寸錦雜綴(一・四) 140 164 127

嚶々筆語(一・五) 149

遠碧軒記(一・五) 443 446 461 515

著作堂一夕話(一・五) 675

古老茶話(一・六) 14 37 83

林羅山

不詳

生川春明

尾崎雅嘉

西村白鳥

柳亭種彦

橋本経亮

不詳

野々口隆正

黒川道祐

瀧沢馬琴

還魂紙料(一・六) 577 581 582 593 594 596 599 607 635 636 658 柳亭種彦

「柳亭筆記」といひ之といひ、種彦の男色関心の深き

を見るべし。又用捨箱も。自伝小説も。「よだれか

け」も。好色本目録も。*頭注「種彦と同性愛」の研究

なり立つべし。下示の外資料多し。」

擁書漫筆(一・六) 724

用捨箱(一・七) 115 139 168 187

撈海一得(一・七) 325 335

兼葭堂雜録(一・七) 491

北辺隨筆(一・八) 109

骨董集(一・八) 287 310 314 337 348 355 425

閑際筆記(一・九) 194

和漢大平広記(一・九) 213 (閑際筆記の内也)

世事百談(一・九) 384

閑田耕筆(一・九) 564 男化女

閑田次筆(一・九) 718

東臚子(一・十) 146

嗚呼矣草(一・十) 217

齋諧俗談(一・十) 280 男化女、二タナリ

秉穗録(一・十) 735 738 742 779

嘉良喜隨筆(一・十一) 178 247 254

高田与清

柳亭種彦

鈴木煥郷

木村孔恭

富士谷御杖

岩瀬京伝

藤井懶齋

山崎美成

伴蒿蹊

同

田宮仲宣

同

大肚東華

岡田挺之

山口幸充

烹雜 <small>にまぜ</small> の記 (一・十二)	434	滝沢馬琴	江戸雀 (二・五)	496	不詳					
一時隨筆 (二・一)	733	岡西惟中	梅翁隨筆 (二・六)	56	外に天狗も多し、目次見よ					
当代江都百化物 (二・一)	792	馬場文耕	桜の林 (二・六)	121	千家尊澄					
			十八大通 (二・六)	698						
			本朝世事談綺 (二・六)	712	菊岡沾涼					
兔園小說別集 (二・二)	486	滝沢馬琴	足薪翁記 (二・七)	491	522	550	565	571	* 頭注「種彦」	柳亭種彦
八十翁時昔話 (二・二)	569	新見正朝	南留別志 (二・八)	28	29					荻生徂徠
牟芸古雜志 (二・二)	608	瀨川如皐輯	可成三註 (二・八)	74						篠崎東海等
画証錄 (二・二)	791	喜多村信節	北窓瑣談 (二・八)	321						橘春暉
兔園小說余錄 (二・三)	33	馬琴	三省錄 (二・八)	413						志賀忍
新著聞集 (二・三)	293	不詳	曲肱漫筆 (二・九)	438						不詳
三養雜記 (二・三)	515	山崎美成	於路加於比 (二・十)	(606)	618	651	662	* 頭注「種彦」	柳亭種彦	
近世奇跡考 (二・三)	708	山東京伝	難波江 (二・十一)	473					岡本保孝	
筠庭雜錄 (二・四)	105	喜多村信節	卯花園漫錄 (二・十二)	851	581	731	800		石上宜統	
勇魚鳥 (二・四)	183	北山久備	義士隨筆 (三・十二)						山崎美成	
蜘蛛の糸巻 (二・四)	296	岩瀨京山	理齋隨筆 (三・一)	293					志賀忍	
筠庭雜考 (二・四)	531	喜多村信節	中陵漫錄 (三・二)	226					佐藤成祐	
閑窓自語 (二・四)	680	柳原紀光	柳庵雜筆 (三・二)	398					栗原信充	
雜說囊話 (二・四)	721	林自見	賤のをだ巻 (三・二)	646	648	664			森山孝盛	
玉石雜誌 (二・五)	332	栗原信充	嘶の苗 (三・三)	491	547	天狗			晁鐘成	
二川隨筆 (二・五)	404	<small>〔山川素石 細川宗春 不詳〕</small>								
飛鳥川 (二・五)	418									
	421									
	422									
	427									
	429									
	430									
	434									

(三期卷四。一つも印なし。再調すべし)

春雨譚 (三・五) 649

高井蘭山

梅園日記 (三・六) 447

北慎言

後はむかし物語 (三・六) 572 576 577

手柄岡持

(なほ「日本随筆索引」正統により検出すべし。右は
自から繕読し印をつけ置きたる頁のみを掲ぐ。)

岡場遊廓考 (「未刊随筆百種」卷一)

豊芥子

別項「男色地誌」「男色戯文」に記したるものの外、
男色文献の抜粹あり。

《以下燕石十種本なり》※頭注「(以下「燕石十種」)

墨水消夏録 (一) 526

蘭洲東秋颿

独寝 (二) 16

柳沢淇園

江戸真砂六十帖広本 (二) 338 写浮世絵写

不詳

三座家狂言並由緒書 (二) 499 狂言也

不詳

異本洞房語園 (三) 29 女カブキ

庄司勝富

寛天見聞記 (三) 121 122 123 128 129 131

不詳

江戸塵拾 (三) 161 異稚児測

不詳

麓の花 (三) 338 竹ノ丞寺

山崎美成

(画証録) (続一) 24 *頭注「前出」

喜多村信節

(江戸百化物) (続二) 193 *頭注「」

未詳

紙屑籠 (続二) 240 253 256 258 259 266 268

三升屋二三治

舞曲扇林 (続二) 297 308

河原崎権之助

柳亭遺稿 (続二) 326 以下全文引用多し見るべし。

*頭注「(種彦)」柳亭種彦

疑問録 (続二) 368 372

山崎美成

色道大鏡 (続二) 410 424 473

畠山箕山

天言筆記 (新一) 163 192 193 194 199 202 (龜屋の)

飯島半十郎

筆拍子 (新五) 464

浜松訶国

大奥秘記 (新五) 522

村山摂津守

なほ随筆索引により再検すべし。

(以下文藝古温知叢書による。前掲と重複するものは省

略)

宝永落書 (卷五)

松平吉保に関するもの其他。

瀬田問答 (卷六) (「新百家説林」卷三)

そゞろ物語 (卷八)

太田單問
瀬田貞雄答

塵塚談 (卷九) 14 55

三浦浄心

窓のすさみ追加 (卷十) 28

小川顕道

老の長咄 (卷十二) 目次。(白菊)

未詳

(三十幅大田南畝の蒐集せる随筆集。四卷。この書

未詳

には「雨夜物語」「岩つゝじ」「若道の勸進帳」「古今若衆序」の四大篇を含む。夫々の項に記し置きしが、他の諸随筆は未読のもの多く、後日再検すべし。

〔新百家説林五卷索引〕

檀那山人芸舍集 (二) 146 野郎狂詩二首 大田南畝

巴人集拾遺 (二) 273 276 詩 同

千紅万紫 (二) 289 290 役者狂言。前詞に男色考あり。 同

石楠堂随筆 (三) 528 子英尊君に贈る男色恋詩。 同

瓊浦雜綴 (三) 609 有王 同

かなそき (金曾木) (三) 717 風来山人 730 737 同

南畝秀言 (三) 761 自休 同

〔新群書類従十卷〕

伝奇作書拾遺 (一) 86 西沢一鳳

同殘篇 (一) 154 血ダルマ 同

同附録 (一) 369 雨夜三杯機嫌写し 同

皇都午睡 (一) 510 男色 同

南水漫遊 (二) 498 501 浜松歌国

〔現代男色随筆(書籍) 夫々の項に記入せざりしもの〕

^{可美吉} 安倍川餅 (昭和八年)

清見寺膏藥の考証

愛と残酷 (大正十四年)

女子同性愛と犯罪、異性化について、同性愛と皐丸

移植。

槐多の歌へる

槐多の歌へる其後

南方随筆

続南方随筆

南方閑話

男色に関する内外の考証極めて多し。

僧房綺談

醍醐寺の僧、同寺藏書により児華やかなりし頃を想

見せる一文あり。

江戸時代の男女関係 (昭和四年 博文閣)

「男娼」の章あり

人名カード見よ。徳川家光、柳沢吉保

〔特殊人物研究資料〕

平賀源内、風来山人

法月俊郎

田中香涯

村山槐多

南方熊楠

南方熊楠

南方熊楠

服部如実

田中香涯

平賀源内全集（三冊本下巻未入手）

平賀実記（燕石十種卷二）天明年間著

平賀鳩溪実記（温知叢書第四）右と同本也。

^{風采}金唐革（徳川文芸類聚卷一）

天明二年（源内入牢後三年）刊。源内蝦夷落説。事

実小説。

^{偉大史叢}平賀源内（昭和二十九年）

水谷弓彦

柳沢吉保

^{史叢}柳沢吉保

工藤武重

《徳川家光、綱吉、堀田正盛、世阿弥、その他研究す

べき人物夥しく、それらについてはカードを参照す

べし。》

（雑資料）

日本若者史

若者と風俗（日本風俗史講座第九巻）

（雑誌切取）

〔一般論〕

同性愛及異性愛の心理

大槻憲二

同性愛の悲劇「淋しさの泉」について

同性愛剔抉録（附現代同性愛の社会分析）

（以上雑誌「精神分析」同性愛と異性愛号）

変態性慾（「犯罪科学」昭和六年四月号）

愛する戦友（同 昭和五年十一月）

同性愛考（同 昭和六年九月）

恋愛と友愛（不明、文学雑誌らし）

同性愛考（婦人公論か）

同性愛への一考察（「犯罪科学」昭和七年一月）

小児愛好症の病理（同七年二月）

伊福部隆輝

巴陵宣祐

江戸時代及其前期

俳人芭蕉の同性愛

男色心中論

江戸かげまの末路

美少年不破万作の逸話

宿場のかげま茶屋

かげま綺談

闇將軍家光（「日本及日本人」昭和八年一月号）

三田村鳶魚

宮田斉

高橋鉄

大隅為三

丸木砂土

井沢三樹

丸木砂土

浜尾四郎

伊福部隆輝

巴陵宣祐

伊福部隆輝

巴陵宣祐

伊福部隆輝

岩田準一

岩田準一

同

同

同

同

岩田準一

男を愛する男（「週刊朝日」昭六年七月十九日）

田中香涯

稚児華やかかなりし頃（「宗教往来」昭和八年二月号）

服部如実

銀鷄「変生男子の説」（「グロテスク」昭四、一月）

齋藤昌三

湯島夜話（「犯科」昭六、二月）

宮川曼魚

我が国寺院に於ける俗少年教育（昭八、一、二月）
（『宗教研究』）

高橋俊乘

女装の男（「犯科」昭五、六月）

渥美清太郎

女形行状記（同昭六、八月）

魚大学

水茶屋若衆茶屋（「文芸倶楽部」昭五、八月）

夢想兵衛

稚児（「日本評論」昭十一、三月）*頭注「小説」

今春聴

「児灌頂」の事

（現代）

旧友潤一郎（「文芸春秋」昭八、三月）

辰野隆

小説「釜ヶ崎」（「中央公論」昭八、三月）*頭注「小説」

武田麟太郎

秘密の姉妹（「婦人公論」昭十一年四月特輯）

片岡鉄兵批判

新東京陰間図（「犯罪科学」昭五、七月）

三村徳蔵

女形の種々相と同性愛（「娯楽雑誌」

当世陰間覗き（「グロテスク」昭六、七月）

或る特異性格者の告白（「犯科」昭八、六月）

昭和男色噺（大阪日々新聞 昭和八年十二月廿日以降）

肉屋に化けた人鬼（「中公」）

女装曲芸師バルベツト（「犯科」昭六、四月）

化粧室の哲学（同昭六、三月）

ブルウスト覚書（「新潮」？）

未開人種の同性愛（「犯科」昭七、二月）

モルトケ伯の男色裁判（同 昭七、一月）

サード侯とその作品（「犯科」昭五、十月）

ヒルシユフェルト博の印象（「犯科」昭六、六月）

同性愛と文学（ユマニテ 昭和十二年四月号）

其角伝雑考（「国語国文」昭十二年八月号）

弁草紙（旅と伝説 昭十二年八月）

児観音縁起絵詞（好古 昭和十三年五月号）

男色異風考（ユマニテ 昭十二年九月号）

（追加）

荻原鬼男

伴中

三村徳蔵

牧逸馬

城戸睦夫

堀辰雄

ラムパクス

大隈為三

諸家

富田幸

鳥居清

藤井万喜太

内藤堯宝

森山恒春

書物往来（合本）の記事中男色に関するものを抜粋

大正十三年
九月十三号

古今若衆序

剥野老序跋

新野郎花垣序

野良三座託序

雨夜三盃機嫌序

貞享四「諸国敵討」の挿絵

「浮世づくし」の考証

宮崎三味氏野良本売払の手紙

自笑作「男色藁人形婦り新座」のこと

野良評判記「延命字学集」のこと及口エ写真

逸題野郎評判記

菱川師宣絵本年表

書物往来叢書 野郎ものの評

「若衆物語」の考証

「延命字学集」写真（十五午四月号口及終巻後）
（表紙字裏と並せて四葉出づ）

「難波の顔はいせの白粉」抜粋

「若衆物語」の考証

衆道の吉三の廓通ひの俗謡のこと（十五年二月）
（号へつまく）

「三芝居子供推量物語」の写真

伊セの白粉別題也

（以上）

変態資料全揃 男色関係事項

第二号 二形丹後

第三号 国芳の男色絵。性辞典（上）

第八号 人商人

臨時号 性辞典。男色記事雑誌名。鳥屋の番頭。

五指の法。

第十号 御物上り

第九号 男色随筆

第十号 カーマストトラ、ラテイラハスヤ。

第十一号 三人共狎

第二号 男色新聞記事切抜

第三号 男色小咄。すはり考。綿貫小説。

第四号 伎道一夕話。女性同性愛。綿貫小説。

第四号 男色小咄。綿貫小説。

庶刊号 旅役者

江戸生活研究 慧星合本 夫々の項に書入れたる外。

五人女輪講 南方その他

鹿の巻筆輪講

江戸繁昌記輪講

男色忌避の商見世

松本亀松

大阪発行**此花**全巻より及明治四十三年一月十二日破落号
至明治四十五年七月十五日破落号

(破蓄号) 5 元禄劇場の淫風。 13 紅絵、地紙壳(鳥

居清満) ※頭注「レ印外全部原本見てカードを書

くべし」

(第二枝) 4 明和伎鑑(禁止評判記)

(第三枝) 4 力量の違ふ人々(絵)

(第四枝) 19 よだれかけ解題(永田文庫)

(第七枝) 9 小間物壳、煙草壳の絵。

(第八枝) 19 「役者八景」延宝八年評判記。

(第九枝) 10 女尻打祭三図。 1 古山師重四座役者絵

画の一図。

(第十枝) 5 山路の露と同じ絵を春信として出せり。

7 小太夫鹿子。 10 鹿の巻筆挿画。 18 色

子といふ男。

(第十一枝) 7 師宣筆若衆図

(第十二枝) 19 大阪の明治前のカゲマ実情(夢蘭生)

(第十三枝) 15 犬つれぐ挿絵

(第十四枝) 13 野郎の文字絵

(第十七枝) 21 東同性色情史(美少年論) 紅夢楼主人の

広告

(第十八枝) 8 香具若衆。 19 若衆の痔疾。

「外科治療集」
貞享元年 中村宗興

(第二十一枚) 8 婦女を姦童に代用せし事(南方)

98 「百人局」若衆と僧の図

15 好色一代若衆(難波立聞昔語)

(洞落号) 4 大惣本の売物

東京発行**此花**全巻より(及大正元年一月十日第一号
及大正三年五月十日第二号)

(第八号) 13 菱川師重若衆図

(第十六号) 17 石川豊信若衆図

(第廿三号) 17 奥村利信若衆図(都の九重山本京蔵)

18 歌舞伎若衆の頭髮(一)

(第廿四号) 19 右(二)

(同性愛に関するノート) 一まとめにして袋にあり

J・A・シモンズのひそかなる情熱(精神分析連載の

切取)

ホキットマンの話(「新青年」昭十年初掲載文の切取)

シモンズ「伊太利ルネサンス」中同性愛人名カード其他

「日本のホーム」未完稿。藻屑物語に関する考証文。

「藻屑物語」に関する断片写しもの(三綴)

「外国人の見たる日本衆道」「衆道狂歌集」その他。薄葉

シモンズ袋

に筆記。

芸者宿ノート（三綴）

舞子、踊子、白拍子、女歌舞伎等に関するノート。

原始社会の同性愛ノート

江ノ島児ヶ淵、宦官、男色今鑑目次、等のノート一綴

喝食ノート

柳樽と末摘花抜粹ノート

踊子発生図式（手紙複写） 踊子論、二綴

カード大小二種五ツ引抽斗（ト）にあり

他に岩田君と文通の手紙複写簿様存せるものあり。

槐多「二少年図」（「文体」昭和九年六月号掲載文の切取）

「パイデラステイヤ」スクラップブック

昭和十六年七月岩田君二送レルカードの控

（コノ外ニモ少々）

辞（辞書）	三
研（研究）	十二
地（地誌）	八
法（禁令）	二
随（随筆）	八十一
遊里細見ノルイヲモ含ム	
	一〇六

能	狂言	脚（狂言本、院本）	………二十七
4	〔評（判記）？〕	………一	
3	平	室（徳川以前）	十四
	仮名	浮（世草子）	四十一
2	青	黒	………七〇
	人	合	………十三
	酒	滑	………
	草	小明治以後	二
6	詩	俳諧連句	十一
	狂	川（研究を含む）	八
	哥	………四五	

5 (落) (小噺) 二十

7 (絵)

8 (ワ印) 二

雑誌 三十三

合計三三五枚

外ニ岩田目録訂正カード 三十六

【注】

1 若槻保治『古浄瑠璃の新研究 延宝・享保篇』(新月社、昭和十四年)の藤井乙男による書評切抜。

2 月川和雄「J・Aシモンズと熊楠、乱歩——男色論の周辺から」『本』講談社、平成五年四月、古川誠「江戸川乱歩のひそやかなる情熱——同性愛研究者としての乱歩——」『国文学解釈と鑑賞』至文堂、平成六年十二月、渡辺憲司「江戸川乱歩と男色物の世界」『国文学解釈と鑑賞』別冊江戸川乱歩と大衆の二十世紀』至文堂、平成十六年八月他

3 岩田と乱歩との研究については拙稿「江戸川乱歩の半生と近世資料」(『立教大学日本文学』平成十七年十二月)を参照されたい。

4 板坂則子『江戸時代恋愛事情 若衆の恋、町娘の恋』朝日新聞出版、平成二十九年、染谷智幸・畑中千晶編『男色を描く』勉誠出版 平成二十九年

5 乱歩の古籍の多くは現在立教大学図書館が所有しており、『江

戸川乱歩旧蔵江戸文学作品展図録』(立教大学図書館、平成十七年)に目録が掲載されている。

6 正しくは「近代日本文学大系」

7 『日本売笑史』は中山丙子(太郎)著、寸美会発行、明治三十九年刊

8 正しくは明和壬辰序

9 不詳